

平成 19 (2007) 年度 日本語一般コース及び Study Japan Program 報告

留学生センター 畝田谷 桂子

1. 日本語一般コース、Study Japan Program とは？

共通教育や農学研究科が開講している日本語授業の他に、留学生センターでは、全学の外国人留学生、外国人研究者、その家族を対象に、多くの日本語授業を開講している。それらは、留学生向けの「研修コース」と「一般コース」、留学生および外国人研究者、家族向けの「5週間プログラム」注1)に分けられる。

留学生向け授業のうち「研修コース」とは、主に国費研究留学生を対象とする大学院入学前予備教育で、1学期集中の日本語初級コースである。

「一般コース」とは、全ての留学生が各人の日本語能力に応じて受講できる授業群で、各授業の内容は1学期ごとに完結し、学生は各学期初めのプレースメントテストで指定されたレベル内において、各人の日本語能力と時間の余裕に応じて、授業を必要なだけ選択して取ることができる。レベル別に初級から中級の授業が提供され、技能別の授業も設けている。

この「一般コース」の授業科目の中から、学术交流協定校から派遣された特別聴講学生と特別研究学生に対して、日本語初・中級レベルの単位および修了証を発行するのが Study Japan Program である。

なお、上級レベルの授業は、共通教育の日本語・日本事情科目(学部留学生の必修科目)を「一般コース」に続く上級レベルとして位置付け、学部生以外の上級レベルの留学生にも受講を許可している。またこの他に、農学研究科が開講している科学技術日本語も、「一般コース」の中級から上級レベルと位置付け、農学研究科以外の同レベルの大学院留学生にも受講を認めている。このように、留学生センターは全学の日本語授業のレベルを把握し、まとまりのあるプログラムの中に各授業のレベルを位置づけ、プレースメントテストを行い、学生が能力とニーズに応じて最適な授業をとれるように助言・指導している。

本稿では、留学生センターが開講している「一般コース」と「Study Japan Program」について、平成 19 年度実施報告を「2. 今年度の課題に対する成果」、「3. 今年度の運営報告」「4. 次年度の課題」の順に行う。

2. 今年度の課題に対する成果

「平成 18(2006)年度日本語一般コース及び Study Japan Program 報告」注2)に「次年度の課題」としてあげた以下3点への今年度の対応を報告する。

注1)「5週間プログラム」は平成 19 年度後期から開始。前期までは「家族サポートコース」で、家族・研究者を対象とし、留学生の受講は原則として認めなかった。

注2) 畝田谷(2007)『留学生センター年報 2006～2007』、pp.32-48

2—1. 課題 1 = 継続的な教育の質の向上

教育の質の向上の具体策として、「授業担当教員の教育能力を向上するため、学ぶ機会を積極的に作り、研究会や学会などに参加すること等」を掲げた。この点については、本年度も、本学留学生センターで鹿児島日本語教育研究会の研究例会(7月27日:香港城市大学語文学部日本応用研究プログラムリーダー高橋リタ先生講演、3月15日:一橋大学大学院生尾崎由美子氏発表)を開催し、常勤・非常勤多くの教員が参加した。

その他の教育の質の向上の成果は、以下のとおりである。

- 1) 初級クラスで整備していた電子化教材の運用を始めた。
- 2) 中級会話1クラスで使用していた宿題提出用紙を改善し、宿題提出率をさらに高めた。
- 3) 今年度も、直接の話し合いや、授業ごとの電子メールアドレス設定などにより、授業担当者間で授業方法・内容や学生について情報を共有し、授業運営のための共通理解を深める努力をした。

2—2. 課題2 = 授業評価から内省した改善案実施後の自己検証

昨年度から各学期終了後に、授業担当教員が学生の授業評価を読んだ後「自己評価報告集用資料(授業内容報告、授業実践についての自己評価、改善案)」に記入するシステムを始めた。文書化することで、従来授業に対して教員が個々に内省していたことを明らかにする機会ができ、常勤教員がコーディネーターとして全てに目を通し、各授業の状況を把握する機会にもなった。

今年度は、授業改善案を実施した後の効果の自己検証が課題であった。そこで、本年度は用紙を「Teaching Data」として記入内容を整理し、新たに授業改善案実施後の効果を明確に表わすために、「先学期の改善案の実施結果」という項目を追加した。これにより、計画、実行、評価、改善というPDCAサイクルの「改善」が次の学期の「計画」、「実行」に螺旋状につながった結果が記述できるようにした。

2—3. 課題3 = 言語習得ニーズや言語習得過程の異なる学生の扱い

言語習得ニーズの異なる学生(大学院入学試験に備える研究生、協定校から派遣されて1年間留学をする特別聴講学生、研究・論文執筆に日本語が必要な大学院生、必要でない大学院生等)や、第一言語習得過程を辿って日常会話能力を獲得した日系県費留学生にいかに対応するかが課題であった。

初級クラスでは、非漢字圏の国費大学院予備教育生(理系)、同じく非漢字圏の協定校派遣の特別聴講学生、漢字圏の私費研究生の三者の違い、また中級クラスでは、近年このレベルで増加している協定校派遣の特別聴講学生と文系研究生・文系大学院生との違いが挙げられる。これらの学生の違いは、自国の教育文化の影響などから学習スタイルや教育方法のピリーフにも現れ、特に初級のコミュニケーション重視の授業方法にうまく適応できない学生もいる。

対応策として、本年度は以下の6策を試みた。

- 1) 「中国人研究生補講」(夏季休業中5週間)を開講

8月最終週から5週間、初級1および2レベルの中国人研究生に、発話によるコミュニケーション能力を高めるため、週2コマ補講を行った。

- 2) 「個別指導」(後期)を開講

初来日で初級2レベルに入った学生に対する学習指導(1ヶ月)、および中国人研究生向けの発話能力を高めるドリルを、iPodを使用したLL形式で行った。参加した学生のレベルは一定で

なく、各人のレベルに応じた指導を行った。

3)「日本語能力試験 2 級文法」(前期)「日本語能力試験ワークショップ」(後期)を開講

特別聴講学生や文系の研究生、大学院生にニーズの多い日本語能力試験に対応した授業を、前期は一斉授業、後期は個別指導形式(3級から1級)で実施した。

4)「日本語5週間プログラム」との連携

初級 1、2 レベルで発話能力を補う必要のある学生には、5週間プログラムの授業も受講することを勧めた。

5) 学生を複数レベルのクラスに在籍させる

非漢字圏、漢字圏の学生に見られる能力差(非漢字圏は発話・聴解能力が高いが読解能力が低く、漢字圏はその逆の傾向が見られる。)に対応するため、個々の技能に対応して複数レベルの受講(初級3レベルの読解入門と中級1レベルの会話など)を多く認めた。

6)異文化理解科目に「異文化理解1b」(前・後期:外国人講師(元留学生)の英語による授業)と「日本文化入門2」(後期)を設け、学習機会を増やした。

なお、言語習得過程の異なる日系県費留学生の問題は、学生個人の柔軟性等により困難度が異なるため、必要な時に個人的に対応した。

3. 本年度の運営報告

【1】開講時期

前期:4/16~7/27 (15 週間) 後期:10/15~2/8 (15 週間)

新規留学生の多くが 4 月、10 月初旬に渡日し、渡日後の各種手続き等に調整期間が必要なため、学期期間は毎年全学の授業日程より遅れて設定している。

【2】オリエンテーションとプレースメントテスト

前期 4/10、後期 10/9(午前:初・中級プレースメントテスト、午後:オリエンテーション)

a. プレースメントテスト

受験者総数:前期 66 名(内上級テスト受験者 27 名)

後期 72 名(内上級テスト受験者 35 名)

上級プレースメントテストは各学期の共通教育初回授業で実施(4/11、10/3)

プレースメントテスト追加試験:適宜。対象:所定の日時に受験できなかった学生

初・中級用問題:SPOT A、B(Simple Performance-Oriented Test 筑波大学開発)

及び自作文法問題、日本語検定協会の J. Test の一部

上級用問題:日本語検定協会の J. Test の一部

b. オリエンテーション

配付物:前期『鹿児島大学日本語授業履修案内 Spring 2007』

『スタディ・ジャパン・プログラム授業科目概要』

後期『鹿児島大学日本語授業履修案内 Fall 2007』

『スタディ・ジャパン・プログラム授業科目概要』

上記配付物により、全授業のレベル別リスト及び授業担当者、受講規則及び修了認定規則、教室配置図等を説明し、プレースメントテスト結果に基づいて受講クラスについて個別指導を行った。

【3】留学生センターホームページ上の日本語プログラム情報公開

今年度新たに、日本語、英語、中国語、韓国語版の「到着ガイダンス」を作成し、到着直後に必要な各種手続きや日本語授業登録に関する情報等を整理して提供した。また例年どおり、前・後期のオリエンテーション当日までに、新学期の日本語プログラム情報をホームページで公開した。

【4】コースインフォメーション作成及び初回授業での学生への配布、説明

全授業担当者が、「コースインフォメーション」(『スタディ・ジャパン・プログラム授業科目概要』等に記載されているシラバスより詳しく、各授業の目標、教材、授業内容のスケジュール等を記載したもの)を今年度も作成し、初回授業で学生に配布、説明した。授業開始後、コースインフォメーションを学生や他授業担当者が閲覧できるように留学生センターにファイルし、遅れて来日した学生や、興味のある授業について情報を得たい学生、講師間での授業情報提供に役立てた。

【5】オープンクラス(授業公開)

毎学期一定の授業を学内、学外者に公開し、参観者との意見交換および質疑応答を行っている。今年度は以下の通り実施した。

	日付	公開クラス	参観者
前期	6/20	初級クラス	鹿大学生 14 名 他大学学生 17 名
			前期参観者延べ総数 31 名
後期	10/25	初級クラス	他大学学生 5 名
	12/7	初級クラス	中学生 15 名、引率教員 1 名
	1/24	初級クラス	鹿大学生 5 名、他機関学生 3 名
		後期参観者延べ総数 29 名 内訳:鹿大学生 5 名、他大学・機関学生 23 名、引率教員 1 名	

【6】学生による授業評価

留学生センター所属の授業担当者の日本語授業全てに対して、今年度も学生による授業評価を行い、留学生センターで回収後、集計結果を公表した(巻末参考資料)。授業評価質問紙は留学生センターで統一したものを作成、使用している。

【7】授業内容報告、授業実践についての自己評価、改善案、改善実施後の評価

今年度も、各学期末に全ての授業担当教員に記入してもらった。今年度は上記 2-2 で述べたように記入項目を精選し、「先学期の改善案の実施結果」を追加し、螺旋状につながる PDCA サイクルが記述できるようにした。

【8】Study Japan Program

平成 16 年度後期から開講している Study Japan Program は、学術交流協定校派遣の特別聴講学生・特別研究学生に日本語初・中級レベルの授業単位を発行している。また、日本語学修科目(必修・選択)、文化学修科目(必修・選択)から、所定の科目を 10 単位以上修得した場合は、SJP 修了証書を発行している。

本年度の SJP 科目の単位認定者数は 24 名、総認定単位 177 単位であった。そのうち 6 名(前期 2 名、後期 4 名)が SJP 修了証を取得した。

SJP の特徴、プログラムの概観は以下の通りである。(『SJP 授業科目概要』)

SJP の特徴

- 1 1 学期または 1 年間、日本語日本文化を中心に学ぶプログラムである。
- 2 1 学期で 10 単位、2 学期で 20 単位以上修得することができる。
- 3 学術交流協定校からの短期留学生はこのプログラムにより、単位を修得し、修了証を得ることができる。
- 4 このプログラムの受講により、日本語の基本的な運用力を身につけることができる。
- 5 日本の文化と社会について基礎的な学識を得、異文化理解を深めることができる。

表 1 プログラムの概観(春学期・秋学期)

種類	区分	レベル又は科目	単位数	プログラム修了要件	
				最少単位数	週あたり最少時間数
日本語学修科目	必修	初級1	5	5(各レベルで指定する科目を週5コマ学修すること)	7.5
		初級2	5		
		初級3	5		
		中級1	5		
		中級2	5		
	選択	初級	1	1(初級・中級の各レベルで開講されている選択科目のうち週1コマの科目を学修すること)	1.5
		中級	1		
文化学修科目	必修	異文化理解1	2	2(左のいずれか1つの科目を学修すること)	1.5
		異文化理解2	2		
	選択	日本文化入門	2	2(左のいずれか1つの科目を学修すること)	1.5
		日本人学生と学ぶ鹿兒島 修了レポート指導	2		
合計				10 単位	12 時間/週

【9】 2007 年度の週あたり開講コマ数とレベル別授業科目

本年度の一般コースおよび Study Japan Program の週あたり開講コマ数を表 2 に示す。前・後期の週あたり平均開講コマ数はここ数年ほぼ同様だが、昨年度比で 0.5 コマ増えた。

表2 2007年度 一般コースおよび Study Japan Program の週あたり開講コマ数

レベル		開講コマ数/週	
		前期	後期
初級	初級 1	6	6
	初級 2	7	9
	初級 3	6	6
中級	中級 1	8	8
	中級 2	5	5
	中級 1、2	1	1
初級・中級レベル向け		5	4
前・後期の週あたり平均開講コマ数		38.5	

- ・「漢字1」は初級1、「初級作文」「漢字2」「個別指導(後期)」は初級2、「漢字3」「初級応用」は初級3、「日本文化入門 1,2」「発音クリニック」「中級作文」「読解入門」は中級1、「日本語能力試験2級文法(前期)」「日本人学生と学ぶ鹿児島(後期)」は中級2、「日本語ワークショップ」は中級 1、2、「異文化理解 1a, b」「異文化理解2(漢字圏ワークショップ)(前期)」「修了レポート指導」「文法ワークショップ(前期)」「日本語能力試験ワークショップ(後期)」は初級・中級レベル向けの開講コマ数として数えた。
- ・夏季休業中の「中国人研究生補講」は開講コマ数に含めない。

本年度開講した一般コースおよび Study Japan Program のレベル別授業科目を表3-1, 2に示す。各授業の担当者、内容、教材等については、『平成19年度前・後期シラバス集』『鹿児島大学日本語授業履修案内 spring 2007』、『鹿児島大学日本語授業履修案内 Fall 2007』、『スタディ・ジャパン・プログラム授業科目概要』に記載している。

本年度新たに設けた科目は、上記 2-3 に述べた 6 科目(「中国人研究生補講」「日本語能力試験 2 級文法」「個別指導」「日本語能力試験ワークショップ」「異文化理解 1b」「日本文化入門 2」)である。

昨年度開講した科目で本年度閉講した科目は、受講者のいなかった「異文化理解2」(後期)である。「コンピュータ・スピーチ指導」は「修了レポート指導」と合併した。また、昨年度前期の「漢字圏文法」(漢字圏学生対象の口頭練習個別指導)は、昨年度後期以降以下のように能力別に2つに発展して分岐した。

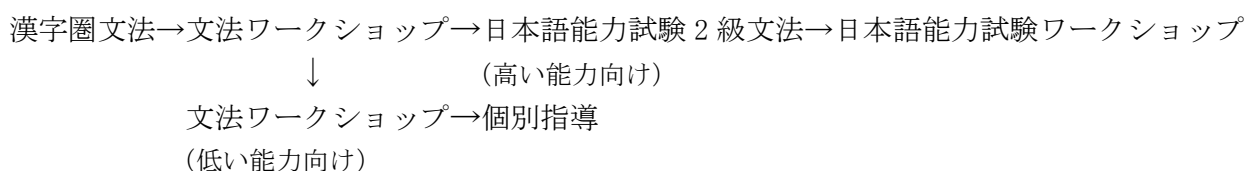


表 3-1 平成 19 年度前期 レベル別授業科目

レベル		
初級	中級 1	中級 2

初級会話1 漢字1	初級会話2 漢字2	初級会話3 初級応用 漢字3	中級会話1 読解入門 読解1	中級会話2 読解2
	初級作文、中国人研究生補講*		中級作文、発音クリニック、日本文化入門 1、日本語ワークショップ、日本語能力試験 2 級文法	
異文化理解1a、異文化理解1b、異文化理解2(漢字圏ワークショップ)、文法ワークショップ、修了レポート指導				

*「中国人研究生補講」は8月から9月の夏季休業中に週2コマ5週間開講した。

表 3-2 平成 19 年度後期 レベル別授業科目

レベル				
初級			中級1	中級2
初級会話1 漢字1	初級会話2 漢字2	初級会話3 初級応用 漢字3	中級会話1 読解入門 読解1	中級会話2 読解2
	初級作文、個別指導*		中級作文、発音クリニック、日本人学生と学ぶ鹿児島、日本語ワークショップ、日本文化入門2	
異文化理解1a、異文化理解1b、日本語能力試験ワークショップ、修了レポート指導				

*「個別指導」は初級 2,3 レベルで補講が必要な学生をそのつど集めて週2コマ実施した。受講者は不定。

4. 次年度の課題

次年度の課題は以下の3つが考えられる。

1) 継続的な教育の質の向上

授業担当教員の教育能力を向上するため、例年どおり学ぶ機会を積極的に作り、研究会や学会などに参加すること、各授業において授業方法や教材等の改善を続けることである。

2) 研修コース終了後の非漢字圏研究生の日本語学習

国費大学院予備教育生として研修コースを終了した学生の多くは、非漢字圏で理系専門の学生である。現状では研修コース終了後に、一般コースの初級2、3レベルへ移行している。これらの学生は日本語能力が高ければ研究で得られる情報も多くなり、また人間関係もうまく働いてメリットは多いが、研究との時間的制約もあって、研究室での会話、少なくとも生活に必要な日常会話がスムーズにできるレベルに達することが喫緊の課題である。中・上級への継続的な日本語学習を想定して基礎文法を網羅していく一般コース

の初級授業とは別に、研究室や日常生活の場におけるコミュニケーション能力を短期間で効率よく高める授業を、予備教育終了後にも続けて提供することができないかが課題である。

3) 言語習得ニーズや学習方法の異なる学生、いびつな四技能を持つ学生への対応

この点については、今年度も開講科目を調整し対応を試みているが(「2-3 課題3＝言語習得ニーズや言語習得過程の異なる学生の扱い」)、予算や人員の制約の中で、引き続き可能な限

りその年の学生の特質に応じたきめ細かい開講科目の対応が必要であろう。

(留学生センター 准教授)

平成19（2007）年度日本語コース授業評価

2007年前期・後期の学生による授業評価は例年通り5段階評価で18問である。以下に質問内容およびこれらの質問について5段階評価を行った結果を、前・後期各クラスごとの平均値として示した。なお18問中、質問14から質問18については各担当教官についての個人評価を行っており、その部分については本報告書には含めないものとする。2004年度後期からスタートしたスタディ・ジャパン・プログラムに関連する科目は、前期35科目中22科目、後期29科目中21科目である。授業評価未実施のクラスは、前期6科目、後期6科目で、実施率はそれぞれ82%、79%であった。未実施の理由は個別指導を中心とするため評価形態に適合しないなどであった。

後期の科目数が少ないのは、2007年後期から、国際交流会館で開講する留学生とその家族、研究者などを対象とするプログラムを「日本語5週間プログラム」として、別途開催することにしたためである。「日本語5週間プログラム」については、シラバス、授業評価、改善案を含めた自己評価などをとりまとめた『5 weeks program授業報告集2007～2008』を本冊子とは別に編集した。

またスタディ・ジャパン・プログラムの実施の詳細、授業評価を受けた改善プランを含む自己評価などをとりまとめた『Teaching Report授業報告集2007～2008』も本冊子とは別に編集している。上記二つのプログラムの授業状況等についての詳細をお知りになりたい方は留学生センターにお問い合わせいただきたい。

[質問内容]

- 1 あなたはこの授業によく出席しましたか。
- 2 あなたはこの授業でたくさん勉強しましたか。
- 3 授業でおぼえたことばを毎日の生活で使えるようになりましたか。
- 4 日本の文化や日本人についてよく理解できるようになりましたか。
- 5 授業のスピードはどうでしたか。
- 6 学習量はどうでしたか。
- 7 クラスの学生数はどうでしたか。
- 8 一週間の授業時間数はどうでしたか。
- 9 クラスの規則や成績のつけ方についての説明はどうでしたか。
- 10 このクラスの教材は全体としてどうでしたか。
- 11 このクラスの教え方は全体としてどうでしたか。
- 12 テストのやり方や宿題、レポートの直し方は全体としてどうでしたか。
- 13 この授業は全体としてどうでしたか。
- 14 先生は教える知識と能力が十分にありましたか。
- 15 先生の話し方はわかりやすかったですか。
- 16 質問への答え方はどうでしたか。
- 17 先生の教えることに対する熱意はどうでしたか。
- 18 先生は教えるのを楽しんでいましたか。

[2007年度日本語コース授業評価結果]

[前期]

質問 クラス名	登録者数	回答者数														平均
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
初級会話1	14	13	4.6	4.0	4.3	4.0	4.0	4.3	4.0	4.0	4.0	4.3	4.5	4.6	4.5	4.2
初級会話2	9	7	3.8	3.8	4.0	4.4	3.7	3.2	4.4	4.5	4.5	4.2	4.5	4.4	4.4	4.1
初級会話3	5	4	3.7	4.2	4.2	3.7	4.5	4.2	3.7	5.0	4.5	4.7	5.0	4.2	4.7	4.3
初級応用	7	4	3.7	4.0	4.7	4.7	4.5	4.5	4.2	4.7	4.7	4.0	4.5	4.5	4.2	4.3
漢字1	13	13	4.3	4.0	4.3	3.9	4.0	3.7	4.0	3.6	4.0	4.2	4.3	4.3	4.3	4.0
漢字2	6	※														
漢字3	2	※														
初級作文	4	2	5.0	4.5	4.5	4.0	4.5	4.5	3.5	4.0	5.0	4.5	4.5	3.5	4.5	4.3
読解入門	5	3	3.6	3.3	4.0	3.6	4.0	4.0	5.0	4.3	4.6	4.0	4.0	4.3	4.3	4.0
中級会話1	14	7	4.2	3.8	4.4	4.0	4.1	4.0	3.7	4.0	4.2	4.2	4.4	4.1	4.3	4.1
中級会話2	5	5	4.8	4.4	4.6	4.2	4.2	4.6	5.0	4.6	4.8	4.6	4.8	4.6	4.4	4.5
中級読解1	13	6	4.5	4.3	4.1	4.1	4.3	4.5	4.1	4.1	4.5	4.6	4.8	4.5	4.7	4.3
中級読解2	4	4	5.0	4.7	4.2	4.7	5.0	4.5	5.0	4.7	4.7	4.5	5.0	5.0	5.0	4.7
中級作文	9	4	4.7	4.2	4.2	4.5	4.5	4.0	3.0	3.5	4.0	3.7	4.2	4.2	4.0	4.0
発音クリニック	9	6	4.5	3.6	3.5	3.8	4.1	4.3	3.3	4.1	4.3	3.6	4.1	3.8	4.5	3.9
日本語ワークショップ	4	※														
異文化理解1-a	13	12	4.5	3.5	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.1
異文化理解1-b	13	13	4.5	3.5	3.8	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	4.2	4.0	4.1	4.0	3.9	3.9
漢字圏ワークショップ(異文化理解2)	5	5	4.6	4.2	4.6	4.6	4.4	4.6	4.6	4.4	4.6	4.4	4.6	4.4	4.6	4.5
日本文化入門1	3	2	4.5	4.5	5.0	4.5	4.5	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8
修了レポート指導	17	※														
文法ワークショップ	17	※														
日本語能力試験2級文法	8	※														
科学技術日本語	4	4	5.0	5.0	4.5	4.0	4.2	4.0	3.7	4.5	4.7	4.5	5.0	4.7	4.7	4.5
日本語 I (A)	10	10	4.5	3.8	3.8	4.0	4.1	4.4	4.7	4.3	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.2
日本語 I (B)	10	※														
日本語 II (A)	10	9	4.7	4.6	4.0	4.1	4.4	4.2	4.1	4.2	4.3	4.3	4.2	4.0	4.2	4.2
日本語 II (B)	11	11	4.8	4.7	4.6	4.2	4.7	4.3	4.5	4.2	4.4	4.7	4.6	4.8	4.8	4.5
日本事情A(文系)	11	10	5.0	4.3	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5	4.8	4.6	4.7	4.4	4.8	4.9	4.6
日本事情A(理系)	17	14	4.3	4.3	4.4	4.2	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6	4.5	4.4	4.6	4.6	4.4
日本事情C	22	21	4.5	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.4
会館初級1	8	5	4.8	4.0	4.2	4.2	4.6	4.6	3.8	4.8	4.6	4.8	4.6	4.8	4.8	4.5
会館初級2	4	3	4.6	4.3	4.3	4.0	5.0	5.0	5.0	3.6	4.6	4.0	4.6	4.6	4.6	4.4
会館ワークショップ	4	2	4.0	4.5	4.5	4.0	3.0	3.0	2.5	3.0	5.0	5.0	4.0	4.5	4.5	3.9
桜ヶ丘日本語ワークショップ	9	4	4.0	4.7	4.0	3.7	4.7	4.2	4.2	4.2	4.5	4.2	4.5	5.0	4.5	4.3

※未実施

[2007年度日本語コース授業評価結果]

[後期]

質問 クラス名	登録者数	回答者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均
初級会話1	11	11	4.5	4.2	4.1	4.2	4.5	4.5	4.3	4.4	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4
初級会話2	13	12	4.0	4.0	4.5	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.4	4.5	4.5	4.5	4.4	4.2
初級会話3	16	12	3.8	3.6	3.9	3.8	4.1	4.1	4.0	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.1
初級応用	8	6	3.6	3.6	4.1	3.5	3.8	4.1	3.5	4.0	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	4.0
漢字1	12	10	4.4	4.2	4.2	4.3	4.5	4.4	4.2	3.8	4.5	4.4	4.5	4.3	4.5	4.3
漢字2	13	※														
漢字3	3	※														
初級作文	11	5	3.4	3.0	3.6	3.4	3.4	3.6	3.4	3.6	4.0	3.0	3.6	4.0	3.7	3.5
読解入門	6	6	4.1	3.6	4.0	4.5	3.6	3.5	4.3	3.8	4.5	3.5	4.1	4.1	4.1	3.9
中級会話1	12	11	3.8	4.0	4.4	4.0	4.3	4.2	4.0	4.0	4.4	4.5	4.5	4.3	4.4	4.2
中級会話2	5	4	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5	4.7	4.7	4.5	4.5	4.2	4.2	4.2	4.5	4.3
読解1	12	8	4.1	3.6	3.5	4.3	4.2	4.1	4.2	3.5	4.3	4.0	4.2	4.3	4.3	4.0
読解2	7	7	4.0	4.1	4.5	4.1	4.0	4.4	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.5	4.2
中級作文	12	9	4.4	3.6	3.6	4.0	3.6	3.7	3.6	3.1	4.3	3.8	4.0	3.7	4.0	3.8
発音クリニック	5	2	4.0	4.0	4.0	4.5	4.0	4.0	2.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8
日本語ワークショップ	6	※														
異文化理解1-a	16	11	4.9	3.5	3.7	4.5	4.5	4.2	4.2	4.1	4.4	4.8	4.6	4.4	4.6	4.3
異文化理解1-b	13	9	4.7	3.7	4.1	4.4	4.3	4.3	4.2	4.4	4.6	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2
修了レポート指導	8	※														
日本文化入門2	6	4	3.7	4.0	4.5	5.0	4.6	4.3	4.2	4.3	4.7	4.5	4.7	4.5	5.0	4.4
日本人学生と学ぶ鹿児島	9	※														
日本語能力試験ワークショップ	18	4	4.2	3.5	3.5	4.2	4.2	3.5	4.2	3.0	4.5	3.8	5.0	3.7	4.7	4.0
日本語Ⅲ(A)	14	12	4.9	4.7	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.6	5.0	4.7	4.9	4.6	4.8	4.7
日本語Ⅲ(B)	18	15	4.4	4.3	4.6	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.6	4.3	4.8	4.6	4.6	4.3
日本語Ⅳ(A)	9	※														
日本語Ⅳ(B)	10	10	4.6	4.2	3.7	4.1	5.0	4.7	4.4	4.5	4.9	4.4	4.7	4.5	4.9	4.5
日本語Ⅳ(C)	11	8	4.3	4.1	4.2	3.8	4.3	4.0	4.3	4.2	4.5	4.5	4.3	4.3	4.5	4.2
日本事情B(文系)	18	12	4.7	4.0	3.8	4.7	4.3	4.6	4.0	4.3	4.5	4.4	4.5	4.1	4.5	4.3
日本事情B(理系)	16	12	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6	4.9	4.7	4.7	4.9	4.6

※未実施